

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙①

応募者に関する情報

記入日：H24年12月7日

応募者情報	
応募 団体名	(フリガナ) ヌノシダワカシュウカイ
	(団体名) 布師田若衆会
応募 担当者 連絡先	団体名： 布師田若衆会
	所在地： 〒781-5101 高知市布師田1711
	部署名： 事務局
	役職名： 会長
	氏名： 岡林俊宏
	TEL： 090(8978)8589 FAX： 088(846)6421
	E-Mail： nk-okaba@mri.biglobe.ne.jp
ホームページ	

応募団体の主たる事業（※行政の場合は、記入は不要。最大 2000 字入力できます。詳細は別紙添付可）

地域イベントの開催

- ・ 布師田納涼祭
- ・ どんど焼き、コマ回し大会
- ・ 地元小学生のためのサマーキャンプ、国分川カヌー教室
- ・ 田植え、稲刈り体験とどろんこドッジボール大会の開催

環境活動

- ・ 地区の廃品（ダンボール、新聞紙、雑誌、アルミ缶）回収（年 2 回）、プルタブ集め（車イスに交換して地元の福祉施設に寄付）
- ・ 地元小学生と国分川水質調査の実施、バードウォッチング
- ・ ライトトラップ等による昆虫観察会の開催
- ・ ホタルの再生活動
- ・ ツリーハウス整備
- ・ 炭、竹炭づくり

歴史・文化活動

- ・ 地元の史跡、金山城跡の整備と遊歩道の整備
- ・ 地元の偉人岡村十兵衛、一木権兵衛の墓掃除
- ・ 室戸市羽根地区十兵衛会との交流（岡村十兵衛先生追善相撲大会への参加）
- ・ 神祭等のお手伝い

その他、他団体（青少協、総合型スポーツクラブ、PTA、保護者会等）と連携した地域活動全般

第 2 回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙②

応募するカーボン・オフセットの取組についての基礎情報 (1次審査での重点ポイント)

応募に関して、写真（JPEG 等）や概要図（PDF 等）は別途メール等で事務局までお送りください。

応募の際にいただいた資料は返却いたしません。あらかじめご了承ください。

※記述欄が不足する場合は、用紙の追加も可能ですが、応募用紙②全体で A4 用紙 3 ページ以内にまとめてください。

※第 1 回カーボン・オフセット大賞の 1 次審査を通過した事例一覧もご参照ください。

URL : http://www.carbonoffset-network.jp/award1st/entry_datalist.html

1. 応募するカーボン・オフセット活動の名称・タイトル

布師田納涼祭をカーボン・オフセット

2. カーボン・オフセット活動の概要

<カーボン・オフセットの分類>

以下の 4 分類からひとつ選び、□に✓をつけてください。

商品使用・サービスオフセット

- 会議・イベントオフセット
- 自己活動オフセット
- 自己活動オフセット支援

【参考】

環境省による「カーボン・オフセット第三者認証基準(Ver. 1.1)」に基づく分類
<http://www.jcs.go.jp/pdf/document/kijun.pdf>

<カーボン・オフセット対象・・バウンダリ>

3①-1に記載した算定範囲と同じ

<カーボン・オフセットの取組の実施期間>

- ①2011年8月20日
- ②2012年8月18日

<カーボン・オフセットの取組に関する情報提供方法>

- ・布師田小学校で全校生徒に説明
- ・地区内ほぼ全戸(約600戸)に、祭りの開催と祭りをカーボン・オフセットで開催することを呼びかけ(430戸から賛同)
- ・地区内全戸600戸および協賛広告企業120社に、オフセットでの祭り開催を盛り込んだプログラム冊子を配布
- ・納涼祭開会式にてオフセット宣言実施
- ・県庁HPへの掲載(URL)

3. 1次審査項目

①自らの行動に伴う温室効果ガスの排出量の認識

(自己活動オフセット支援以外の場合)

- ①-1 排出量の算定方法及び算定範囲
 イベント開催における、関係者の交通移動、会場の使用電力量
- ①算定方法については環境省の算定ガイドラインを用いた。総量0.844トン
- ②同上。総量0.917トン

- ①-2 排出量の算定に利用したデータ種類
 電力使用量、ガソリン使用量、軽油使用量

②排出削減努力の実施

取り組まれた排出削減努力について該当とする取組に✓をつけてください(複数可)。なお、取組のアピールも含めた詳細については、応募用紙③「1. CO2 排出削減努力と関係者の理解や協力」に詳しく記載して下さい。

- 節電 節水 廃棄物の減量化 省電力機器の導入 公共交通機関の利用・呼びかけ
- その他(具体的に _____)

③オフセットの手続き

<カーボン・オフセットに利用したクレジット等の種類>

J-VER

<カーボン・オフセットに利用したクレジット等のプロジェクト名称>

高知県森林吸収量取引プロジェクト A

<カーボン・オフセットに利用したクレジットの無効化に関する状況>

- | | |
|----------------------------|------------|
| ①環境省カーボン・オフセット用無効化口座による無効化 | 平成23年8月4日 |
| ②環境省カーボン・オフセット用無効化口座による無効化 | 平成24年7月27日 |

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙③

応募するカーボン・オフセットの取組についてアピールポイント (本審査での重点ポイント)

応募に関して、写真（JPEG 等）や概要図（PDF 等）は別途メール等で事務局までお送りください。
応募の際にいただいた資料は返却いたしません。あらかじめご了承ください。
※記述欄が不足する場合は、用紙の追加も可能ですが、応募用紙③全体で A4 用紙 4 ページ以内にまとめてください。
※第 1 回カーボン・オフセット大賞の 1 次審査を通過した事例一覧もご参照ください。
URL : http://www.carbonoffset-network.jp/award1st/entry_data1ist.html

1. CO2 排出削減努力と関係者の理解や協力

- ①CO2 排出削減努力の項目（内容）について、期待した効果とその成果について具体的かつより定量的にアピールしてください。
- ②CO2 排出削減努力の必要性・重要性について関係者の理解と協力を得るにあたっての工夫とその成果をアピールしてください。

①祭りで使用する軽油量の削減

従来複数の発電機を利用していたところを、建設センターから大型の発電機をリースすることで発電のための軽油使用量を 30%程度削減することができた。騒音も大幅に軽減され、来場者からも好評であった。

ガソリンの削減

祭りのスタッフのみでなく来場者に、祭り会場まで徒歩または自転車での来場を徹底した。従来まで 5カ所約 200 台分準備していた駐車場が 4カ所約 145 台分でも十分対応できることとなり、約 25%削減できた。

②地元の史跡である戦国時代の山城であった金山城跡が、荒れた杉林になっていたため森林ボランティアの協力をいただき、会員自ら間伐を実施し、登山道や史跡看板等の設置を行うと共に、公園にツリーハウスを建設した。そのことによって、間伐の意味や、森林による CO2 吸収等についての理解が深まった。また、整備した史跡に、地元の小学生らと一緒に散策する会を実施したり、公園で春祭りを実施する等して、子ども達にも自然にふれ合い、体感しながら森林の管理や CO2 削減を学んでもらうことがで

きた。

2. カーボン・オフセットの内容

①自らが行うカーボン・オフセットの取組の意義・重要性について、社会にもたらす波及効果などの観点も踏まえてアピールしてください。

②自らが行うカーボン・オフセットの取組の継続性、展開への意欲や見通しについてアピールしてください。

①地元最大の祭り全体をオフセットすることで、地域住民全体に対してCO2削減に対する啓発することができた。また、地元小学校全校生徒95名が全員参加するお祭でもあり、先生方にもオフセットのことを理解してもらい、各学年で先生から子ども達に取組を伝えることができた。毎年、子ども達全員にそれぞれ絵馬を書いてもらっているが、アニメキャラクター等が変わって、木や森林、川遊び等、自然を描く子ども達が増加した。

②今まで、それぞれ個々の活動として実施してきた祭り等の地域イベントや環境活動、歴史・文化活動が、オフセットに取り組むことによって、全ての活動を環境貢献活動として一貫性を持った取組として実施できるようになってきている。

会員相互のモチベーションが高まり、ボランティア活動全体に様々なアイデアが出てくるようになり活動の幅が広がってきている。

3. 環境、地域・社会、産業振興等の貢献性

次の①～④のいずれか（複数可）の観点での貢献性についてアピールしてください。

- ①自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する河川・湖沼をはじめとする内水面や土壌・大気あるいは生物多様性といった自然環境への配慮や保全などの環境の面での貢献
- ②自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する地域・社会への経済的便益や効果、第1次産業と他産業との連携促進、地域活性化や一村一品活動の拡大などの地域・社会の面での貢献
- ③自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する中小企業振興や産業基盤にとって重要な安定的なエネルギー供給・確保、環境と調和した市場の牽引などの産業振興の面での貢献
- ④自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する国際貢献等、さまざまな面での貢献

布師田若衆会では、全ての活動を地元の子ども達を巻き込んだ活動としている。

・川を守る活動として、

国分川の水質調査を継続実施しながら、その自ら調査した川で、バードウォッチングを実施したり、カヌー教室を実施していくことで、川をきれいにしていくために、自分たちは何をしなければならないのか考えてもらうきっかけになっている。

・里山を守る活動として

自分たちで間伐し整備した地元の史跡や公園・ツリーハウスで、サマーキャンプを実施したり、炭や竹炭づくりをしたり、ライトトラップ等による昆虫観察会を実施することによって、森林の役目や里山の自然の豊かさを肌で感じてもらう。また、田植え、稲刈り等に加えて、どろんこドッジボール大会を開催することで、田んぼにより親しむ食育活動につなげている。

さらに、地域全体の廃品回収を実施し、その売上を、これらの地域貢献活動に活用すると共に、子ども達は集めたプルタブを車イスと交換し、地元の福祉施設に寄付する活動を継続していくことで、さらに環境を守り、貢献していく意識を高めることにつながっている。

4. 普及啓発の創意工夫とその成果

- ①自らが行うカーボン・オフセットの取組について第三者である市民に伝え、理解者の裾野を広げ巻き込み、「自分ごと化する」ために行った創意工夫（イベントの開催やツールの開発等）についてアピールしてください。
- ②人々や社会に与えた影響（行動様式や考え方の変化）について、実際に得られた反響も踏まえてその成果をアピールしてください。

① 市長さんを訪問し、カーボンオフセットでの祭りの開催を PR し、ご賛同いただき、祭りの開会までのご挨拶にまでお越しいただくことができました。

②祭り開催のための経費として、協賛企業から 90～100 万円程度の広告収入を当てていたが、近年不況のため、40～50 万程度しか集まらなくなってきていたが、カーボンオフセットに取り組みそのことを PR していくことによって、それならば寄付したいという企業も多数現れてきた。また、地元住民にも理解してもらい、寄付を多くいただけるようになり、祭りを継続していけることとなった。

C02 削減やカーボンオフセットという、特に高齢者や子ども達にはなかなか理解してもらいにくいテーマだが、地元で開催する身近なお祭りをオフセットして、それを PR していくことで、親近感を持って理解してもらうことができるようになった。

5. ストーリー性

- ①自らが行うカーボン・オフセットの取組についての「魅力」「面白さ」「ユニークさ」などをアピールしてください。
- ②こうした「魅力」「面白さ」「ユニークさ」について、それを第三者である市民に伝えるために行った創意工夫についてアピールしてください。また、低炭素社会の実現にどのように貢献しているのか、アピールしてください。

①地元で開催している手作りの祭り全体をカーボン・オフセットした。子ども達に参加してもらうことで、大人の意識も高まり、住民全体の意識を高めることにつながった。

オフセットを、単発のイベントのみの活動として実施するのではなく、地元の里山、川、田んぼ等それぞれにおいて様々な環境活動を実施しているため、住民全体に、即、受け入れられることができた。

②若衆会かわら版という年数回発行している広報を全戸配布したり、地区の掲示板に展示することにより住民全体に活動を広く PR している。

地元新聞でも取り上げてもらい広く県民に PR できた。

今後も子ども達と共に、様々な活動を通じて、自然を大切に、環境を守る心をはぐくみながら、無理なく楽しく環境活動を継続していきながら低炭素社会づくりに貢献していきたい。また、それらの活動全体を通して、地域全体が高齢者や子ども達もみんなが、つながり、ふれあえる、温かい地域となっていくよう地元を盛り上げていきたい。

以上に記載された取組について別途説明資料がございましたら、PDF の場合はメールでお送りいただくか、現物資料を郵

送ください。

また、公開可能な商品・サービスの様子がわかる写真を（JPEG等）お送りください。

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙一式 送付先およびお問い合わせ先

カーボン・オフセット推進ネットワーク事務局

（担当：入山、井上）

〒東京都港区芝公園3-1-8 芝公園アネックス7階

電話 03-5776-1223 ファックス 03-5472-0145

E-Mail award@carbonoffset-network.jp